2024年度 学校評価まとめ（総合的考察）

児童用アンケート、保護者用アンケート、教職員アンケートの結果を総合的に考察すると、以下の重要なポイントが浮かび上がります。

1. 学びと学校生活の満足度

- **児童の評価**では、ほとんどの児童が授業を理解していると回答し、体験学習を楽しんでいると感じています。また、学校に行くことが楽しいという評価も高く、全体として学校生活に満足している様子が伺えます。ただし、16%程度の児童は学校や授業に不満を感じており、この部分へのサポートが求められます。
- **保護者の評価**では、学習理解度や授業への参加が良好であると認識している一方で、約20%の保護者が児童の学習到達度について不明確だと感じているため、保護者に向けた児童の活動や成果の発信方法を工夫する必要があります。

2. 安全・相談体制・いじめへの取り組み

- **児童**は「いじめをしてはいけない」と理解しており、学校生活での安全は確保されていると感じていますが、**保護者**は「学校がいじめのない学校づくりに取り組んでいるか」について不透明と感じている回答が多く、保護者に対する情報提供や信頼醸成が不足していると考えられます。特に「わからない」という回答が目立つ点については、学校としてさらに明確な取り組みを示す必要があります。
- **教職員**は、いじめの予防や児童支援に取り組んでいるものの、全体的な連携や対応に改善の余地があり、学校全体での「報告・連絡・相談」の徹底が求められます。また、児童との関わりが直接的に影響を与える部分でもあるため、教職員の間で一層の連携強化が必要です。

3. 教職員間の連携

- **教職員**のアンケートでは、教職員間での連携に課題が見受けられ、特に他学年との連携が取りづらいと感じている教職員がいることが明らかです。連携不足が指摘されているため、学校全体での協力体制を強化し、学年を超えた連携を円滑にするための施策が求められます。さらに、教職員が一致して「楽しく分かりやすい授業」を意識している点は評価できますが、日常的なコミュニケーションや共有が不足している可能性があり、これを改善する必要があります。

4. 保護者との連携

- 保護者と学校の連携については、保護者が学校の活動や授業の実態を十分に理解していないという点が浮かび上がりました。特に、学習内容や授業の成果が十分に伝わっていないと感じている保護者が一定数いるため、学校は保護者に対して児童の学習状況や活動

をより一層見える化する努力が必要です。また、いじめへの取り組みに関しても、保護者からの理解を深めるための情報提供や説明が不可欠です。

5. 挨拶や社会性の育成

- **児童の評価**において、挨拶の実施状況はおおむね良好であり、社会性が育まれている様子が伺えますが、**教職員の評価**では、場に応じた自然な挨拶ができるように指導ができていない教職員が一定数存在することが課題として挙げられています。学校だけではなく、地域や家庭と連携して、挨拶をはじめとする社会的なマナーをしっかりと指導していく必要があります。

結論

全体として、児童・保護者・教職員それぞれが学校生活や学習に関して一定の満足感を持っているものの、以下の点において改善の余地があります：

- **保護者との連携強化**：保護者への情報発信を工夫し、学習成果や学校活動の透明化を図る必要があります。
- **教職員間の連携強化**：学年を超えた協力体制の構築と、学校全体での取り組みを強化するための施策が求められます。
- **いじめへの取り組みの強化**：いじめの予防や早期発見に向けた具体的な取り組みを保護者と共有し、協力体制を深めることが重要です。
- **挨拶や社会性の指導**：挨拶などの社会的なスキルを家庭や地域と連携して育む必要があります。

これらの課題を解決するために、学校、保護者、地域が一丸となり、連携を強化していくことが今後の課題です。